謡草

九

ロ 169
617
3 止

宮城県図書

慈悲心ハかゝゝ之叉

慈殘報

慈悲いつくしミとよむ我子と一味に継子を愛し
そだつるをまことの慈ハそこにありとよむ生のまゝ子をめぐミ
はまことなくあてがつくしとあり慈悲なきハ天道人乃此報の
なれハ求めずして禍ひをうけ殘ハ虎狼毒蛇乃ごとく
くちのう憎悪なすまじばそのつミ禍ひよりかゝるが譬を
何まいハ慈苦乃報ひありあり継子とまゝ子と一味の養
育すまいそ夫此思ひいまゝ世なの秘密えいふとめてし
是そのむくひ一なりまゝ子と一味に慈悲すまいへん
まのくこ子も安末ぬしよハその慈悲を感しひたすし

明治　年　月　日
上小暮

よ慈母乃思ひをなし一しや春めと盡さんと思ハさつ
るなし志つれハ眼前産育の苦労おくしてよくとまく
うる縁ひその報ひ二ありつ母ハつまりのハうれも子を思て
ましと云ハ繼子の母冥ろ乃くら飢ていのはつわさ
まりしく也つひ後母の子も此やうり報も成りぬへし
のうへ慈悲の天乃此くらしのこと二ろ道ハまうぶ
こゝろの子よ報ひて縁ひめてさきものなりこれを
むくひなり繼子よつまらずあるると咒ハまつく子
も又うらむる如くのまひありろ此よくしと思子並の
云事するとは皆同よ清り耳よ清ろそのうれ
し自く恐くよむひとてがさい母なし志つなの慈

昔ハ継母の道にまくおもも実子よこと汎らすすゝまてる
まつのまく事のよ漏ひむせ乃あくてとろすく目こ
都くいやすく心わやうすりこれその報ひ明かなり
浄土乃三部経よ九品乃往生とあるるよ深く慈心
と上品上生乃第一義とすまる慈悲の深あるへし
極楽よ往生するゝ母ならり是その報ひあつまら
ある悪の報ひも又宮ありまくよつきろけれハ是れ
すさまじく思ひ邪見の人ハかく自ととそなへ世間の
ざくりあさまじき報せとも報ひ悪縁善縁の報
應ハ山ひこのことくなれハ母てそとは果しうこ
まへとのなし子すろ産とろ乃子よ報ひてあさは

しき禍ひありこれそのむくひ二なりとても我に
まやしなひなすらく何ことも死のことく思ひぬれは
歓喜の常なる心ならまさりてむしとこふしいとうやま
しぬこれそのむくひ三なり貪嗔痴の三毒は地獄
の業なり善悪の蛇心も三毒のはなれくしきりのこれ
を何ぞと後生を願ふとても術をかしいたし合とも
ひそかにし別居をするにす阿鼻獄の責をうくこれ
そのむくひ四なりかく眼前にむくひあるかゆへに
孝心ある人はよく善悪の苦をしるへきこと是にまかせ
の報ひなり継母なる人も未来善悪のいのちのはかなさ
ありいのんとこのことん我子なしいとともみとりすとこそ

せしと思ひころさんとたくむ人も天下にあまたありしは
皆これ継母となりてはこのんをそうしなひころなすにも
あくこころあさまに死を願ふはそもく利欲の一念なり
これそ本心をくらますゆへなりそれ利欲といふは
まつ我うまれたる子に苦労をするにせんとて此まま
なりと懐ふ一念より善悪育は苦労をいとはぬ利欲その
一なりこそこの産こころ此子あまたも衣裳食物玩物
まそしもわか子わかりぬと思ひゆへく地獄をわすれ
世をうけても世安おりぬ利欲その二なりこれに二の欲心
胸にそひ日にまして深くありのきこうともむくひつまり
なくありはきたあさくをおそろしき蛇心とありけり

殊に継子どものあまたあるを残しおきて継母となる
人ハよく思案工夫して此継子にこれをむかへぬるハ家
事をいとなむことも養育せさせん事もむつかしき世の中にて
書にもある人もあまたこれあるべくハ孝行の子となし
それハいとおもしろき事も此手すけありつく継子ハ継
子も実子となるものあし古来多くあれハ胎育生養の苦
労なくして儲けたる子也しかれハ益ありと思ひ
くらべ苦労といふより利欲の地からとも衣食
りてあそひものハかきりも実なる子にも益あらすく
のぞんでも実ハ此子に損あしあるに偏に手する世の中にあり
千金のゆつりをうけて貧窮にせまり一銭の

ゆつりなき兄孤も富貴になれる事あり古人も言
よあるをなかて子にも福あるに親のおしき
をとりてすぎてさきへなんそのひなし子の福からず
くハ窮窮なるゆつりをうけたり此ことハ兄弟にて
兄のころへき家督をうばひとりてハ天の責おそろし
き事なりそれよ継母の慈悲によりてまゝ子も実子と
なりなからも兄の身のほとを見すてたんやと
思案工夫せよ衣服家督との貪欲をさへ嫉妬の
悪心をあらためまゝ子を継母のまゝ子とかへこころよ
き心からまゝ子を母子のむかしへんとかへりあり
からく天のあはれみもまゝ子とをゝこころ一旦ハ

まそのなかすこゝろ子兆のよあしき事気は形よミへらん
つくしゝ継子ならんとおもふらへる毒をまうる子給ひ
て死しけることめしあまたありける子をふかくにくそこみす只畢
竟まことの子とおもふこゝろとすへからりけるを愛する八平
憎しまゝ子と愛するなり古今乃まもあしくとよくわかりぬ
てうまぬ子とまゝしく家に始継母は福徳なる千
こりまた凡なか子はいそのおもへたちあるへきことなりさ
ひとなきにはその子揺ちけて妙縁あしきれハ継母の心
よきハ幸坐くて慈善の深くこゝろ有りかつて
そういふく強悪のものもそくるゝみなりよめやうなる
愚のはなしかりたる君子を師としまなへんくる

て正しく孝行の道をまなへ不愛をなをなりゆへま
継母乃心よはらつきまとはず慈善の恵ふかしかしやうすゆゑ
りのなりこの理をよくしらぬがゆゑにそめむまもあしき事
よらなまよさなるやうよきしへ乃ある人を師と定むれ
妻は慈善の第一義なり
魏乃芒卯か妻子ともんまうけてのち母とをやうもて
後家事れ也よろしき子れの養育つまるなくてハかまれ
て芒卯やもめとなりて孟陽か女を娶て后
妻と次后妻またまた三子とまうくこれ后妻のつき乃
継母なりけりて慈悲ふかくまゝ子まゝ子の差別なく一味
まなさけふかくしゝやを五人のまゝ子母とふかくこゝてまに

またハ継母ありけるを、とらかめハ我あてがひのわけさえなりしに、そ
とうづうらどうめ衣裳食物美麗にぬるくまうくる子と
弟一としてわが子にハつしの外殊ろそかにしてわひ出
さられども伴て子どもはかにやりしかんさつハあまりと継
母をたつ子ひとどうむるんすくそち我あてがひのそれ母
に及ばさまる人わするゆへなるべしといふよくおもくしかれ
わうしんごくこゝろり或時ます子此うち一人国のおきて
とそむきころまでし死罪に行るべしとて籠舎ぬ
継母こまで我おけきりかしひさくやせおどろへいがり
くゝまの子此罪をなりかや道もがなとましめくるしこおく
ならくいとしまさなし或人まで母にかたりきけるハまのく子と

まるつくいかりて不孝忤逆のものなりハらのこゝろなし
おつきせんなしと云継母ころへて実子なしハ不孝
なりしもそれゆへ子のまさりひとすくハさかんや、嫡
て継母なるまでなりける精とおきそしかぬつとなり
いかんとるまでも此子を母なさまれてはまでと驚
て母よりかけく書育せしむかの母となりつくさうの
子と悉むせさるハ虎狼よもおとれかしわが子のこ決葬
しても継子とうとましんハ人の人さる義にあそんでいりぬ
もの心なりぬれ不肖なりといへとも虎狼貪欲のに
なをもてかしせん悪く思ひさることろなり豊にま
かのそのひさうこころとなすてゝ他とましめんやと云継ま

国王へ訴状をたてまつりしかば国王その慈善の徳を感
じ是ハ自然の例母もなきことゝすとしてその子の
罪をゆるして家にかへし給ひぬ是より八人の子ども
慈母につかふること実の母の思ひをなし孝
行実母に事へけるも八人の子とも同しくうやま
せるがごとく和睦にしてむつましく母養育の子乃と
もにあまねく八人の子ともに礼義をおしへけれ
ばみな善人となり八人ともに魏国の大夫卿士の位
にのぼりけるも是よりて魏国
の慈母と天下にしられて末代の手本とあがめら
れぬまゝ子と一味に思ひ子を愛するまでにつなげ

しかるにまゝ子のことをとがめもせしてこゝろ
とゞめまゝ子をにくみつくしてまゝ子をおろそかにし
我のこゝろざしハまゝ子と一味にそのつみをはぐくみ
へまでとなく孝子もかくしとぞするところ婦人の大古今
まれなる賢女なりきこれとても人ごとにこの母のこゝろ
ざしにあらハこのこゝろざしある人の性なり性ハ人々生れ
根本よりましましき賢きも愚なるも
も人ごとに具足のものなり庶人ハ利欲におほはれて本
性をうしなひ魏の慈母ハ利欲のけがれなく本性
あきらかなるのなりましませる凡人の及ぬ事なりと
こゝろえ蔵悪に勇みとをつゝしみのさまたけを多く

繁昌せんことハ人ごとにもねがはしきことなるに魏乃慈
母芒氏ハよろしくうまぬ子をも人にまさりてはぐくみけれバ
よ則くハかの子三人ともに福貴をうけたり
くさうへぬる子まかしとかくかんさく魏の慈母芒氏のとも
てへんハ其足乃本性と觸発すへし

○徐甲が妻乃許氏男子一人をまうけゝく鐵臼と名は
くそのゝちいくほどなくてみまかりぬ徐甲また陳氏
を娶りて後妻となしぬこの陳氏あくまで怨悪ふかん
心ざしあしかりけるが陳氏男子をうめり鐵杵と名づく
まへより此鐵臼ハくるしめうしなはんとおもふ文字なれバ陳之
氏がうめる子をもくろがねきねとなづけゝる男子のさき

継子をはかんとのたくミなり鐵杵ハくろがねのきねとよ
む文字なり徐甲ハはじめより智恵もなく親よはき男なれ
バよろづつまのまゝにて猿のごとくありてかなしことなれバ
はかゝる有様なれバ心よはきせうく怨悪をふかくしきぬれバ
まゝ子の鐵臼を得ることなくさいなむことあけくれなり今
ましかくさいなむこと年ありて鐵臼十六のとし終に
ろ虐たるとうして死たり陳氏まゝ子をころして今ハ
思ひのまゝなる世中なりとよろこびたるところに鐵臼死
して十日あまりして死たるよ鐵臼中よの声ありてお
とろきこゝろけれ陳氏が坐よあらハれ語りけるは
我ハ鐵臼が寃魂なりうつたへ継母のかまの残害

せられぬ事なしわが母うらみを天帝へ奏聞しすでに
天曹乃簿を得てそのむくひに鉄杵をとりころさん
めぐみあり今日より鉄杵をさいなむ事なかれと
云ふ母これをきゝてこゝろもやはらぎけるにやましりて祈り
こゝろをへしいかなる事ぞと母おもひたゆみあやしとかさくと
まことに此声鉄臼世にありし時乃声にかはらず霊魂なる事を
家内乃人おどろきさわげどもそのすがたハみえずして声のみあり
そのこゑハ床のうへよりこえてきこゆるやうになまりぬ
陳氏肝をけしいろ／＼此うらみあるものをまつり筵席をまうけ
僧をかうじてさま／＼祈りけれどもまたあさましきわざはひを
声のうちよりてつけしと或時またこの家をとくさんと云声

してわつと引ごとく聲ありすきまもなくおもてまできこえつ
家内乃人はしりまどひ又おそろしき事をせずこれ
こえすらしも殺すべし所なし鉄臼はまた母これをとゞろ
しそのこゑおほきにおそろしくとおもひてやがてしづまりぬ
しとひて鉄杵すでにたちまち火をえはなちこゝろ蒼
ざめたる時もえんとせしかどもはたしてえんせう
かりがくすさましく毒蛇のごとくさわぎてこれ
あらそひ継母のさいなむこゝろやうやくいちじるしくつゞへり
けうくんにいふのしるしすべてもののうちにおこるといふ
まことのこゝろ鉄杵六歳まではいけるにいたりしかど又疎
しうちてなげきけるありさま母同じやうにあはれなり

見張まいらせ候へと見えしかバ、おどろきさめてくさり
ぬ。かくてそのまゝ一月あまりして、孫〻猶孫すり
ひなし。なりぬ孫〻男猶かりし日より悲哭の声
も三つまうでたり
継子と我子と本来一体の理りなれバ、我子を
まいらむハまゝ子をもおなじまなり。継子を愛するハ
わが子を愛するなり。これ定まつたる理なるものを
て陳氏が悪逆くそのまゝにむくひぬるこそかなしきこ
とく思ふべし。本来継母のまゝ子にはあしくすき
まわがる子を愛せんことも此たるゝうれしきを行く
かそぬきにしむくひあるべきことを戒すべし。世〻もするを

まへなん陳氏貪欲無慙なりしもよくつゝしみて夫婦大切
中のしき事必定なり。よくかんがへてつゝしむべき事を
なり。世間の人かりそめにも継子をおろそかにすべからず
張一清が妻の廖男子一人まうけて早世しぬ。一清
又陳氏をめとりて家に陳氏姑に孝にしてきはめ
て孝なりかゝりしかどもまゝ子を愛する事やゝまゝのさなれ
ば、かく孝も慈善の徳そなはりてむくひによりて陳氏
のうめる子聡明人にすぐれ学問世にこえたれば、後に
瑞検学士と云大官にのぼり、母の陳氏もいみじき栄
耀をうけられたり
陳夫人の孝養ゆへ小節なき此事なきまゝへしも

このゆゑにおもハくいかんとなれハかんとりやうと定せ
ず父母たる人にあハすミしりやうとなしするゆゑに私欲
の慈悲ありて私欲の慈悲心を仁と名づくこの仁ハ人
く固有のものなるをたゞしくむつましくするにあまねく
ゆるさるゝによりてかれ同人に具足の仁なりけりとも
ろのこゝろにてこれがために他人によくしきハいかん曰凡
とりわけハ一体のこゝろしきハあしくなりきゆゑに私
欲のへだてあるく本性の仁くしからさるなりよの人偏
き親疎の差別に迷ひて一体の理をまぬかれ次
第にあつてハ他人なりとおもふらしと思ひまでなるに
対しては他人のうしなふまゝ吾が親とすべしと思へる

一念の私心や仁のかくれんとくらまれくわしとなつては
ありよりつく独りし利欲とはかりくらふて貪心おこる
によつて嗔恚の心むしりもえ出て何ゆゑに仁のかくれしこと
くらまし慈悲私欲のゆひ変じて淫悪貪欲の邪心
となれば一念の私をこゝやくれそき仁性のかくかんあき
らかなれハ始めは清く全くいかなるしますありまくらと謂
てハつゐにまた慈悲善のかなりなかきも慈悲ハ一徳
にして二の名なりこの慈悲は仁性ハ天地の人徳百善
の源なるゆゑに仁性といふハさきにも心にと陳夫人
のこゝろは福禄いとしきも此なり福ひをもとむるに
てハつゐにぬすむともつとむるハ第一の情なるなり

人ハ生付てハよそにかハりくあなかち悪逆の苦楽
まぬかれ仁となしゐること得ましきをおそれかなく
かのすましきなれ
衛の宣公の夫人宣姜ハうきすくれたれハ宣公の寵
甚しく此腹にうまれし男子二人を儲く兄をは寿と名き
弟をは朔と名く宣姜ハくハしと思ハれたるハ内の
ありてまの子の太子伋をころしそのまゝ子を世によそん
とくこそのきの朔と談合して太子伋のことを宣公
へ讒言しぬ宣公その讒言によりひ太子伋を討んと図る
伋をうつへし道の傍をもれく強盗のこんせるよりよ
ゝこまへしと平きくこれよ伋を斉へすまして

ハち斉国へ盧送の使あり太子伋ゆくへしと下知あり
寿きゝしすてよおもひ立日限きハまりぬ宣姜の長子なれバ
もとりて父母弟を犯しいさめられけれ
ども強ようけひく方なしせんかたなくて太子伋の方へ
伐さそ件のはかりことありつけすゆきあふへからす
とかたりけれバ太子伋の曰まことの情なり然れ
されしたりとも父の命を背ていのちをたすかるへき
ものよあらすとてまうへき気色なし寿これ
をくあまりなくこゝろさふかくそつきうるを世に生き
よりハ兄のかはりに死せんにハしかしとおもひ定て酒
伋のまゝ宴として伋に酒をすゝめ其後伋の旗を立

しれかたきハ伏の兵とも太子伋なりと心得てころしけれ
ころしてけりそれかあとへ太子伋ゆきり寿の尸をかゝへて尸
よりふしてなき涙を流して我ハ父乃命にまかせてそ
のかれぬ身なり何の情ある人の此難にあひつる事ハいかに
むなしくなりけるにかなしくわが身もむなしくなりぬと
すゝむ道理なしとて頸をのへてうたれぬとて自
害しぬ宣公宣姜これをきゝて大にあきれもしてきたなき
はかりて太子伋をうしなはんとしけるにいまそに悔て
寿子乃えられせんかたなく此乃罰にそしつまれけるそ
のかは寿の弟朔を太子にたてあるじをゆつられ給ひき
ハ猶も国みたれつゝ朔乃子懿公の代に成て

程なくして滅ひたりその後国人太子伋乃子孫を
立て国主となしてきたりけり
兄乃難をすくはんとて寿か死をかへりみられさるハ
誠にありかたき悌弟なれハ神明の加護あるへき
事なれとも朔ハ宣姜乃讒悪といひましへめん
との天意なるへきにやいかんとなれハ寿か死す
ことを心にすへきと思ハゝ朔のゆるされて寿の死
ハ宣姜乃母の死せるより一きハまさりたる天罰也
まへなき毒とかんとたくらへるをそれ実子くひ
て死し其後さめしとこの宣姜かしてあひ妬なり
あまたれあしあてそてく子実子本末一体なりて

差別なきことを見ぬ人へ残悪の蛇心といふべし
宣姜残悪の本意ハわが子を世にたてゝ孫を害せ
しめんとありしかれども壽ハすでにほろびさ
伋さへともに死し朔ハしばらく國をたもつといへども
二代にしてはかなくして其のちハほろびぬ種となりける
とよく〳〵伋太子の子孫ハ却て子々孫々國の主
それし宣姜の子どもハ跡もなくなるのをかしき
子孫といへどもうけられぬべくもがな身の
まゝめをおもひんとするもの知らず仁をもすこし
たしなみしれ

秦潤夫がつま男子一人をまうけひさしく成
ぬるのちに葉氏を娶りて後妻とす葉氏もまた男子を
まうけつくほどなくして秦潤夫大病をうけ身まかり
ぬその臨終の時妻の葉氏にかたりけるハ次男ハ是
我の實子なれハおもふに及ばず家督を實子にゆづらずば
どりつきさかへけとなの其といと深く云ときゝぬ葉氏
なりよわ慈善なりしへに亡夫に約したりし事なれば
まゝ子継子の差別なく一味にめぐみ深くそだて
けん或時まゝ子ひそかにへよくかくしてとられどもすて
まこころさすへきまでに寵りぬ葉氏わがまゝ他の所にさまかせん
かいまくや思ひけんまゝ子を作まてさりをかへいでゝ
このまゝ兄と兄の身がはりにそまて兄とはゆるし行へ

兄ありてハ我世ハすむまじきとて兄をころし給
ふべき罪なしとも吾子をころし給へとひ
すゝめしかどもあへてきかれざりしかバ人々申しける
きけるにこの子これを聞て是こそ罪ありて角ハかぬ
なんとて罪もなき子をころし給はれやといひしにこの
はゝうへ常に兄弟の中の善悪をきゝてしれ
めぐりきやうする定て子をそて兄ハ実子
なるゆへにかくこそとおもひその母人にそむけるこれも
きはまゝ子にかけるハ兄ハまゝ子にて我ハ実子なり
この母におゐてハあやうし。殊にまけるか今ゑど
がらハいれとなりしとやすてさきをまよひかりけるハ

まゝ子なくあるとすてかきさてこんハ主夫乃いしみまで
まし継子を角あるとやすくおきさなかん主夫のいきこほ
しそと思へ、我もねがはくハ食物もあたへなひを志
さやせん事あるべき夫乃にしることもなく其心も是稲
まそいかゝしかるまじとてきかるゝ亡主のいとく多く
夫の死せる所のまゝにて路のりなりぬるとも寄て感
泣をなし角の雛を継母ハ見にきるれハ絶まいらる
あへしとて県よ奏せんありけるに天子も勅感あり
て死罪をゆるしてかへしかバそのうち勅使をたて
く旌表ときれ門を旌し世の鑑とおかせかはり
此氏の帝代不思義の稲ありて國職にかなち

もの々死罪をゆるされぬる福ひその一なりきまた
き寡にありしてかなしけなくも勅使をうけたる
福ひその二なり果氏慈善を守り時これ福ひを
うけたるありはんやまして仁慎乃惻隠くらゐなる
ものなりあれまていふ慈善ハ百福乃源なり
よろしく響ハ聲ふ應ずるごとくにもとめ得るま
ゝなりさまいふ継母乃まゝ子をにくみせるハま
ことに此福ひをしとめんとの心なれども残悪ハ禍ひの
根なるゆゑにみやかにかへるハ此禍ひをまぬかれ
すてきなるまし天道自然のぬ理なるべま
しるべし

○歙縣に商人あり家ゆたかにとみたれども子孫な
く孩乃としをそとありけるとくへぬ一年あまりして其
あるけ男子を一人まうけぬ商人よろこびひ乃眉を
ひらき祖訓となづけ寵愛かぎりなかりしにおそ
まてに外宅へ商用にゆきぬ其あるとき其の妻よりむ
ひこの子をいたはりて家のものとまもりその方乃勝ま
もしかれども其の方乃子なりよくいひそふまもそこ
にへしと云うとめぬ妻あさくまれもさしそ存じへ
みやすく思ひかへと上まそハまことしくうけ
きとも心わけなりまいそてみちハその生ての
あまりつまあくわけり祖訓ともにはりにかのに

その母いふやうハとすまいハいつりの、志りてよせ給ふて
まのとくかやどよ嫁けまいハ舎とまするあらく夫ね
ゐりものとくそくしてく候まそくひるもく八せり給ひけり
さまりしくおもひよのつ比ごとくそふそんとすまいハ
さぎしくいつりめくるゆへせんくるあく妻ハ下知かり
きらすひぬよく志いれたるまよほうく近よりて給ふよ
とくかまーと志らんをふり我比ものとく今よりく出よ
うまいでとして物児んとなるとあとしめてひろれハわつ
ゑぞとい給く、よくこうへそくたり物児ハいぬらご
とゝすむ文字ふよりかく夫乃様子小志いまこそふそきを
きまゝ三家よ嫁ぬまいとも、はよ○よ子ちすのしとくあ

雅をぬすまね拙くひ祈くろを夫のこと〳〵まち加よ悔ゑ
かうく祖胤ハいの母とくへどそ比妻眉とさつめていひ
たるハされハあるの罰まてはやらん祖胤いそのまよく夫ろ
よ徳らく得へ家あさ海しきるの身いと様う商人た
とらきこれさるくこまとこころむまいハ云よしつりて
ごとハ文あまりまそしとして先祖惡逆乃むくひけりこ
そとて假井よのこころしてたりまつけこまい思んて
かあしさ身まあまり妻比志まさなりとかくてうんやも
すまいとも妻をきけくすさ海しきものなまいハその威
まおそれてく云妻おさいすあまりつあしひよしへつ
ね彼つよ優まいてむあしくなりぬ妻ハ母くしと思子よ

ものと二人なからころしぬまハ志すましくひと思ふ
よろこひけるかいくほとなくて癲癇とやらんおこして
地にふしてころひあかきぬるありさま犬のくるふかことく
に爪にてかきさきぬるにも舌をくひきり狂乱なるてい
不思議なるかなまことにさまさまとかくのことく沙汰しあへり
みなくありしハ妻女かくのことくなるハ何なる天罰
そやしとなけくものゝ有りなしとなりけり友あつまれに
あなひくりしをそのゆへとかたりてまて夫をまつり
よろこふ妻女もつひに蛇身のむくひたすみすとも死
すへなきこちせことかたり猿のことくの下にすみ
妻いさましえよろり

子と犬はそたてなしぬるも恩愛まことはなれてこそある
これまもしこのふてこそ善悪よ知りて候
とよくそたてても実子とあるへしまるこそ我のハ
養子をとするなしひとよのつねのこと成り我子
実子よりもあいしおたすくいひなしのむりなれハ
他人と思しなりんよりハまゝ夫の子と養子とせん
よ何そや此妻乃智恵すて此理りハ心得ぬる
きまなしみても一念のあやまりすて恩愛と分
ゆるこころちらひとく人とそこなひなと思つま
そのれもあさましきむくひよわりされハへく
ことまて悪とつくれハ天乃ゆるしかたくこそとまて

むくひとあらはし給ふ事かくれなくなるまゝに
かねて此智恵才覚ともありて悪を行ふる事なかれ
王益が后妻呉氏もおんなながらも学問とおのこ
物おぼえよかりけるが其学問博くとありて見ひ
ろく徳盛にして貪嗔痴の三毒きつく行さぬ
さうらかゆへに二人の継子といつくしみぬるその実
子よりもはるかにおもくしけるに二人ともに悪ひとく
して世をもやうしさりぬその婦いつまでも恙とももわ
て王氏乃家にありけるか二人の婦とともにまさ大
切にいつくしこれとこくまれたりすべて何事のよは
きてを議云ときてしめて事なしよくしき

ことわりにかなはずしてその実否を明らめぬなれ
ば此衣食のてあてもいきほひなくそれ〻によりて安
し倹約ともなりて親戚他人によろしくまつはり
ゆきとゞまりて合力とこゝろよくむつましかりしかは此
あまへさくそのほとめてむすびしかは王益の一門の中
にはつしくして婦いりまできそよりなさけものゝ
人まてことくよめいりさせてそれぞれのちのちまもる
めしつれしもとまで子の母方の一類の内にてもひ
まの一門にすこしも恨むるものもこそところの子王
安石は宰相となり安礼安國これそれの官にのぼり
其外の子も夫人の封号をうけめでたく沙汰のへぬ

世乃男子学問とおのおの方多しといへども呉
氏はじつの幸あきらかなり。およそ呉氏の
得道脩福乃根本なり悪く子と実子とにかはると
まゝ子と前妻の一門とかつ一親と他人乃むすめ
とをうむすめと皆一味に恩愛厚くさまへだて
ゆる方なき一体乃仁なりこの仁呉氏乃ひとりならず
くらはよう方こころはおのづから音も人をも人にす
うまれつきたくあるこころありきかれども常乃
人は一念乃あやまりにより貪嗔痴乃悪
よりつく仁徳のひかりくもりぬるゆゑにまことに
人愛すれども悪く子とて愛するはあまたなれ

まゝ一門にはあつまれども他人にはうすく悪しくば
憎みて差別ありてかりそめの事にもあらそひ
くすゝめ申し呉氏は学問乃みちきゝて三毒
乃まよひをはらひ仁徳乃ひかりあきらかなるゆへにいつまでも
の人にまでも仁愛の心ありありしてその事おこな
ひいみしくまめやかなりぬるゆへに子ども乃
大福とまの○さその身も栄花をうけられきその
子をあいせん人はかゝりし法をこゝろとなるべし
○晋乃献公乃夫人驪姫にまゝ子二人あり驪姫わが子
を世にたてんと思ひて悪くはかりごとを廻ひ献公
をたぶらかして讒言をかまへ継子を死生とい

あらし重耳夷吾をも國を追出してつゐにわが思ひの
まゝにおもむかして其子奚斉を世つぎの太子に立て
よろこびいとまなかりしといへども申生の死せし年より
六年めの九月に獻公薨せられぬその年の十月奚
斉いまだ位につかざるうちに國人奚斉をころしぬ
驪姫荀息と云大夫とかみに奚斉の弟悼子を位
につけたりしかど同じ年十一月に國人悼子を
ころすのみならず驪姫をも市にひきいだしころ
して町にさらしてけり
驪姫まゝ子と実子と一体の理りをしらずして我身の
子を寵愛するまゝに他のまゝ子を悪ひとなる事しと

ぬしめてその智恵才覚を慈善に用ひなましかば
子ども晋國の主となし我子も必ず公族の大夫とも
なりその榮花なんしやうしかるべし然るに
この理をしらざるまゝにまゝ子をそこなはんとすれ
ばまゝ子ハ栄花繁昌ありとも物くたくことなる
はかりごと浅ましく邪悪をすゝめしく母のまゝへ
なればわがくそれ子ともに滅しとなる事あさ
ましきにあらずや公族乃大夫となるべきものあまた
ありして六十日乃うちに二人の子どもをころされ上
にその身もころされあさましく屍まで恥をさら
しけりまゝ子をころすはわが子をころさるゝわざ

さまゝ中年は遅速ありとも子はころさるゝ事し
たくましぬきこんそのころさるゝ作法き始て初て病
しこまさるは爾ることをまでかくるよりまし子孫も一体
なりてわが子乃業んことをもしむらたいへて病る子
と一味に愛するにありまゝ子と母くらそへるにた
まゝ子乃禍ひとはくまるは理り分明なり驪姫乃
者智によりつひなくすといへどもこの理りとききま
つまゝ子乃禍ひとなしむる事を覚らく却てそ
子とこゝろを禍ひと成くも悪せりおそるべしとまよ
しむべし

一 石奢の妻あるまゝしくて子ともはおかきことを

ひそ二人ありてうむ子をそれまゝありてたりそのから懐
妊しけるが一度に四人うみぬその産しの弥あんとき
すてそ乃苦痛いふべからず後はその身もうまれさる子
も皆むなしくなりぬ又元秀といふ人家にて四
十万此母ありしとまそり本妻は子四人と共に明月のまさ
まで苦しみけれはうむ子とも男女をとりも皆うつくし
ろしぬ元秀或時夢中に数十人ありて人ところともに
のとらへんとそ見しめくとみえておそろさはめくをさ
ありぬまゝたしも足しろひざめとありその苦痛とうろ
はさしくまろひあがきて大に忿とあけてさけびを
なり中に三日ありりくまらずも枕頭されくむかしく

必ずその血ゆく人の子にも千万にひろごりとまけく悪逆
にはじまりけるがゆへにしるしかならずあらはれて闕所せられ其
財のこらず皆官府へいりぬ
こゝに狼といふ者その子をもてくるは人をくらふ事に会して
その子どもに伝へせるは虎狼よりもなほすさまじき毒
心なれども元来いきこそしら牛と変じぬる又悉
なるにあらずや名利の欲心にあかされゝ親の
子まで我とうしなひ石橋が妻のごとくなる残悪
をいましめも今も世間にたくさんその残悪のみなも
とをまつめるにそれ淫によつて二ありつゐには不義の
淫乱にしてその子をまでも死ゆくあり二つには家

まつしく子なく後をたてん者貧窮のさらにさに家をあとのか
けきもを淫会のなる婚姻に定むべき人なりの人に
あるべきを思ひあはせへし夫なき人にあふさる
時は淫乱なり淫乱は悪逆といふなれど此あさすこし淫欲
ますます報ひありまし子ありてしらせん我の上に
とろなきにん此報ひあるべしこまりしほかあらばとも
くもその淫会をしもしけるを見えてまがりて子をいはせ
りんきのいと淫会の事になるはしめおそれ此時より十月を世乗
して懐姙をくべき時をさくへしそのものにまで淫会
おこらぬ子をもとろそこもくひおそろしきことどもなりひ
こりなく淫会をとけむとしかく一念のおこるはずしめに

よく思案工夫せん毒悪乃蛇心退治やすかるべし
元来のこしき残悪を退治きはめてやすしかれん
とかくまづ淫欲とこころゆるすにあらはに屋しるひかさ
なるにあらはれもらむくひあることをもかまへて利欲
のまさくしてなるけまし八そのつゐのかきに悪なるを
世上におほきまちひあきまらしこまやかにいひのへぬ
ものにん人をよく思ひしらるべし

○斉乃宣王の時に義継母とてかしこき慈悲の人あり
義継母乃まへ男の時に我子二人乃内一人ハ実子
なまじに云に及ばぬ兄をその方乃実子なしとて
我むかしくなりて此後をその方にまかせあるに其

かこなけまし八実子乃思ひをなして云べしと云けれハ妻こ
ぞうくそれハその継子に及ぬ吾子をだしうとむとも
まま子におもふくハ子をさかり乃思ひをかまへかひとも
きりにかり夫世をさりて後八ますへのとまりも一人あり
めぐしこれにて継子実子乃隔なく一味に養育し
てかり我内ますこ子町へ出て人と口論して殺されあひ
てをころしてその男ハ罪とのかれてなかりぬある
くれ此方より役人きたりかまひの事をとらめてたすめ
おへ継へぬまことも怠りとその人乃面とてかんすきれ
なりなり我もりうしくへまにゆきなきまつん来すくみ
てくへときつそとりのハ吾なりと云兄まくはしや当て

それハ実によからぬ罪なきものをあやまりおとす事君
しる人とおろかものなりと云て兄弟をまよはかそひ
たまへハめしとりて来りたるものたにやつまてと其人を定む
きやうなしとて兄弟ころものまつまて奉行所へゆるさぬ
なめ所なくも姉のしたしく兄弟わけをひろうるまゝに
て姉のなめもまけわくして宣王の批判をうけしひ長
君宣王きこしめしてく此兄弟に云給ひそれ夫乃口
咄ハなまましきことなまてん罪乃うたかひしまさとこるさ
むつかしゆるしまはあるすなはちまたしもかれども先兄の母
よ二人の内いつまでかゝすけ度と問へし二人の罪人
わくはゆるしと母もみ不孝なるへしとて人不孝あらん此上

孝行なるをたもちたんと謂ふへしことまてそれ
罪と定むへしとあらためて申されしなりけるありて母
とよゆく國王慈悲ありて何しりせハ二人ともにかるこころ
まことさまあかしにむれどもその罪人いつきいと定め
かるし母かんも不便なる事も母のくすけそく思うての
とたもけよふ此勅定ありそても乃かれぬるすなまにハ
後の兄ひと俟しまひやへしとそ志めされるる母かかん
さとあゝしてよろ兄ひとゝるへ行わんとるしハ兄とこす
けるへと云なりけるに問ていもれなるハ弟常ばなりなひ
まそ弟といふさりるき兄をたすけ孝恩子いかれれハいかに冊
まけるハさまて兄ハ何しつけるなるまて後つか

あやまちに死せしは兄なりとあらそひけるを聞さいは
なにとすへきやうもなくきはめかたくやおもひけん
そのことをやめて感悦を深し宣王へつまひらかに奏聞
せられけれは宣王実子をさしおきて継子をころさんと致
よその義継母なる故まことにかくれなきと
あらそひ兄弟ありかくのことくこゝろさしのとこしなへ天
の義もおもろしとて兄弟ともにゆるされ母よりは義
継母と云号をくたされその讒愬冤許せられてこれ
子をおもふことの努力よりありきはおやのつみ
情あるまじきも子のいのちをおしむ事吾いのちよりも
甚しかるなり

慈悲者のこゝろはつめさつけ事まことに忠義の
大義なるかな義継母乃是をふかくしりて大義ハ為
禍の源をたち死禍をまぬかれて福ひを招きて
へきところをされはのりける人はいのちを忘れ福ひ
をむかへつきものとしるへき事をめしにいまた
あるかたの仁義ハ空しくなりて余をなすことなく
余をなすにことはなをさ卸して死といふことをしらぬ
まり福ひなるとはしむるきさ卸しく禍ひとなる所
そのちとめのは義継母のことく義をすてゝ
死をまぬかれて禍ひとさけをしてそのいて福ひ
をなすの君子は死をかくしてそのつとめけれは次

事もろ説ミつゐじ

仁虐報

家内にめしつかふ北奴婢雑人にいたるまで何事
にうけくも慈悲ふかくなさけあるを仁と云何事
につきてもなさけなくむごくあらきを虐と云天
地のあいだ万物の父母として人は万物の霊なれば人として
人を愛するものを天道のたすけまもり玉ふといへり今
子をいつくしまぬものもそれ父母恩にむくふることとし
人として人をそこなふものをたゞ天のまさりひとしきなり
きたとへ人のをそこなひぬものハそれ父母うくる
をむくふとくるもしも仁虐の報ひのけの形あり
きうかいしくなる事必然の理りあり夫禍ひ

よき縁ありて主人となり奴となるといへども畢竟
同じく人の生をうけたるものなり主人も奴をなげきまじくは
その用を達するまでなれば慈悲をもて下なるを上臈
さるべしとすとなれば奴も主人をなげきまじく衣食をあたふる事
し奴は主人をあふぐこと主人は奴をあはれみ思ひやる
すけなく濁る世の中なりければ上主人なきはなはだしく
乱下たる朝夕を尽し主人は道なきまでに下人は離となる
事そのしるしなり彼と云是と云下人なれども
てあればかりそめにも主あるべき理なりたとひ
罪をおかす事ありともあはれみをなすとして殺
すことなかれあはれみ罪とたがせばその

人倫なりとさむらひもありまた目の前にふかくて難と訓
言ひは人あるしめくゆるとありし恵を旅まで事は
常の例なき也と云に及ばずそれなくてはわけて
事下人をはらふ事一義なり読書も思ひ入ては主君を捨
まじきとも前までけれは命をすつるといへり主何の
つまづくも悪悪の心をおこすと記する道理をわりひ報
ひおこりて悪心を変して仁をたもととなすべし
生とし生ける人の生れつきその身を愛せざらん奴とい
ふ者は人の子なりまた親のかはりなればしうはか
へりて奴の親の心の同じくこのこのあまりにもて
思ひやるべき事なりするにあまりかなしむるにや

然ば一体の心人々具足のよしなきにて奴なり他人なり
とおもひとりてかかる差別の念なくばこれも仁なしとさるかな
なきにしくこころしやりなく仁を得ところなき事
それ男女福徳にあらすや
○程子乃母侯氏孝順乃徳をそなへて人を治むる
なる法あり寛仁を本として何事につきてもはなは
しくせつかんし奴をつかふことをきく
ひかしの子とものちやうふたちしへいましめてはげし
くいましるくしかしこれはようつくされなふ
驕して卑しく奔走なりたるをつかふの道乃ぬとあさり責
なまけあまりても賤しき者りとしても同じく人なる事大

さのみいやしむることなかれと深く戒め給ひき
その子ども大人となりてそのころあるほとりに明道伊川と
なりとまふに大賢となり大官にのぼり子孫に至るまで
栄えていみしくはんしやうしぬ
程母は孝慈順仁をあはせてよくも造化しゆゑに
清福乃まことを得て今の世にいたるまでも貴
賤一体の君子もまた賛するにいかでかさるべし
てこの仏の功徳無量なることも造福の根本なり
あまねく物にこれをおよぼすあはれみ侯氏を師と
せば慮念の雲もはれ仁徳の光をあらはす
○王會師が母心たゞしくて家内の人々をあはれみ

けるが鬼ありてのちほどなく會師が家に出ひき
なす犬ひとつの牝犬をうむ此犬あまりになれすゝびひ
をしけるによりて會師が妻にそへすてさきあ
きはこれ犬人のごとくものいひてさきハ汝の姑なり
の吾世にありし時家人にはまなくあたりし報
ひによりてかくいまの畜生の形ちをうけぬ汝これをよくつ
さ犬ひあるあやまりあり知くれて恥をかくら六
此語をさゝへしと云てけしやしおぬ會師これを悲
て涕をながしいろきとてめけまてハきかしハてまりぬ
きとともかきこそしかもおはしりなく泣まどてまする
くもみくれ會師その夕を素しての我我小まゐや

と俗くおもしいまゝれとしするあらしひそいりてまる
しきあるしも師毎日食を絶て人を遠しまゝくしく
それ志し一切なまもくまてるまこの度やよありて外
八十歳人のこの家にすむてとなくにきをへける一二年
ありてのちゆききをさるこれうせぬまことに斎代不
思議なる事どもなり
主人の奴に従まと死る愚痴よりおこまりいりん
とるれハあはれなり死る貴賤一体の理ありと年
を得失利害の道理をとろしりする仙人に奴としたるいの
このしく思ひあまより絵失の念おもけまへるの
苦勇といゝまりあそれますはかげしくつゝひらや

ましすこしあやまりはまたんすると悔しくあくりぬ
ほまたん悪縁の畜生は心あまたし會ごとに母愚癡なる
心行をよくきよしを家人に便はれさこ語ひに狗とは
きぬなれど宜なりけり狗は猶人身の舌根のころ
てられむくひとなりにしそは失はれなりといへに
世なるに悪縁の人をもしされば人身の舌根ことに滅
しては猶なき者はあさましき狗あるくなり
狗とうまれたるは誰もやすいかへきこと
まことにかめこうするこころとなるべし
優誠齊の夫人羅氏仁徳ありける年七十あまり
なることにも物よくおきて見ては粥を費て奴に

よく心よく乃ちさしゆかれたりそれ子乃東山にされ
けるを許さ說とさるになりけることえく奴に語
かますりて仇あり向後慈めこと夫へとりさめられたまふ
に羅夫人差て奴も又人の子なり物さむこさ附あまたは
ほとあてめさせよくその苦労をゆるめよとの事也
と云へり東山また曰夫人年老まひて躬からも
まさとうらるこ給ふ事ははさ海なる行ひあるべし感
その上寒天にあさく起して給ふと苦労もいとはず
下部の病もはりかかしてく慈めあへとやされたま
しま夫人喜てくはしめてこまことおそすなかれ我この
ことおまさハ定きさとも苦労ども見しれまし志井て

餘あまりし我ら妾なるへうしんとて罪に座せられざりき
年八十餘の時までもうミつむすこ乃まさとはらめられ
ぬ男子四人女子三人まうけられけるか皆位たかく
ひさしくさかへたり
奴を愛して苦労をあたへられざるハ慈母乃みちなり
子を愛する心をもしらすなりハさなきのなり書人
のなやまとりかゝみむるところなきにおゐてこの
ふかきちかいはさまはそれ此の国乃人倫におかなく仁尊
のかなしはゝなへしきまてんか、すくれたる仁徳な
きは十五代の孫ひとを継りおもりおしくかれを養ふ
事をとのへるるなりわたりきてもおもく又人乃

なかりと思へるが仁の道もよくぬかとりちまるへきこ
となりしか
胡泰の母性をもはけしくて家人にはまたかりそめの世
をさりくのち十年あまりすき后胡泰が父に
ぬを娶てめ或時胡泰が夢に亡母のしげなるへとれ甘
にあへりし亡き心ふかく家へをおやましける形す
なりて今鶏と生まれぬ明日軍士乃来る時かし
のの雌と捕らるへしこの一首今乃すゝてありとは
なかきこえゝく夢さめぬ胡泰あやしく思ひけれ
きともはかのこゝろもかけと夜明ぬまゝ用ありて
かへるぬそれ此に軍士乃来りて窓にとりけるか

あはれなりと一向ふかく心へ来りぬその身のこゝろにかゝるとぞ
けさりてころし料理せんとはかりけれバ母ハなるかの
ごとく言しけれどもころさず事なりければ胡泰
かくるとおもてしと云ふ人へおとろきあやしみて生
けるうちに胡泰がありてかりまいらせる胡泰ハとかく付
てよろこび母の世にありし時のことをつまびらかにす
かりぬ胡泰これをきゝてありし夢の告に思ひ来
せるこゝとありしといふときくにうれしくつげてよく
奉養しけぬ久しくしてのちハゆめなり人君のうへ
なりとねんごろに胡泰が継母とのりこゝにしてつけ
やまひさりてまた継母なけりし人思ひ胡泰が前にる

うらみはらしけりとなんしるくわ
佛教に云無明を生死輪廻の種とし無明をなすかつら形
見に妄魂の力をれ生心ふけく流転一念死も一形かんに妄魂の
はかなくてつきものなれバ胡泰が母愚痴なれば妄魂なり
なありさまあらはれ何ぞ母し後乃妻なくあらしこれ
し畜生と生れぬ報なるに猿畜生乃ねくことをこれゆ
ひとゝひとかんなうこれをとゞめるたゝ一しまて熾なき
妄魂なまこむ身後にさめて畜生の苦ことをうく故
事しいとふかくまさなかく眼前なるむくひをとかんなから
そり形むる事なけれとも侍へ同人のうらみかひとは
惑とる死まへさるも宜なりとも云へきならや 独生

これも仙覚この理を明して此ためし世につたへられば
よく物の心をつくし無量のうんくん申すに及ばぬ事なり
畜生乃形をうまれん事ハ此人乃報ひなりけりへし今
乃世の畜生業報乃まし此現世で多くあるへけまもとも
人の語をなさて何よりつきあらしけれさうなるへし
慎しよあやまれ此へしおそれ慎へし

元寛乃妻孝情此徳もあやめして先祖乃祭祀の謀
を尽し且文学もさとかりき元寛世をさやうさしれ
けきとも是とせもおその二人乃子をそろへてこつし詩書
をよし学問とさけまうしられて兄此積も才此積も
学ふ学問職鑑して皆其才にあけしれ家をなへぬ業

のけしめ倍禄をくまうして家ちひ親さかりけるを
常にも衣食をあつるものを孤独なるものを始めとし
て賤しきものを次々何かも公界して悦ひけれ
ある時親さとのはまうひしときすものいもつつらぬ
物を施すこと二十年余人をさうして飛ふかにし給
ひうちかして己ちありてしむち了へ一度もなく乱逆
とかくして数へ戒をはゞかりあまにかく仁愛してたしかに
されとも其戒を受ふかこの乃恥おそれ事市町に
てうちれまうかひとしなんえかそ此徳の化し奴は
至るまでにはに悪り弟人群を守へすし縁り元植
葉相乃位りのありかしひきくゆるへてえり

うしとつなはさ
にわくしあり
めくみ
し

一念の仁愛すら福祿あることかくのごとし。寛仁大
徳まよりきくおほ乃僕まして和睦しぬることは宰相
の禍ひそのおほきなること必殺の理りなれば奇特と
いへることなし。しかれば人の不仁なるは眼前の小利を
貪りてより起ることを眼前小利と宰相の禍ひとの
まことの禍ひかいりへきやよく思ひたくらへて眼前の小
利を貪らん大ひなる清福を求めるもの貪欲は毒
心滅し元母の仁心それも明らかなるべしいんとる事
し仁徳は人に固有のものなりして元母のひとりゆく
やすきことならんさゆへなり

鑑草　巻之六

淑睦報

淑睦はよく親しむといふ心なり。小姑は夫の一
族なり。仁愛の深き心をもつて心もなく夫の一体
の仁なるものなれば恵ひなけれは、おのつからうとき
人なりとも、よく妻を料理んありまして、あひなしと
小姑となりぬれは、骨肉同胞の親しあるをや、万物
一体の仁心を明らかにしめる人もいのちを知らぬ者は何の
ゆかりなく親まする親と和ぎぬれは、人も又其
なかしきれ感動するところありて仁愛ともに我
と親しむものなりかくのごとくなれは小姑は夫の

一族に至るまで皆骨肉同胞なれバことに於て尚
その人のためを思ひ人ハ吾ためを助けあひあつまれバ家
てハ兄弟和合のまじハりあつまれバ家に於ても
時ることなく此気をうしなハず妻婿の思ひをなせりことごとく
淑睦眼前の福禄ありかくのごとく淑睦をむつまじく
まつり家門和睦して卒に子孫の福ひを来たりこれ
隣の代福禄あり然るに世のなかの淑睦の人すれバ
る兄弟ハ天属なまたしてはよ念なしあひよめ小志
うとめる人合なるゆゑにてはよ他人なり心ゆるひ
血のつゞきと思へる念もなしよ塞がりてよ生に其
を争ひ害佐と争ひ利と争ふ我満執欲にし

りを争ふによりて一体乃にあるひハくれによりてまよひを生
争ふ心根ありて上つかハ親しきよりかれども尽
よそりとつゝむをいへる統のおとしひらを積て
て多くかんくるしききさまさらも尽まてもなをそこし此
るあさかなのごとく相争ひ相ろこるひてはなにか
きりなさ苦ひとうくるのこともハ家門の恥とあら
わづ子孫の禍ひと基ひを吟まて苦ひと禍ひられ
もいとひさくるとてろめして楽こと福ひハなき
ものこ禄ならこころありといへども吾心まて苦楽
禍福と作りなして取りとさハ行るに相淑睦のゐ
あとのへとも人乃ありよりよ作りなして吾よハとろるを

きことも人のつまなりけれハなとく惑てうつまなきんと
しうひ同しくあさましき心ありよく禍福指
益の報ありとまことさまく淑睦此心のをそむけこと申し人
のかりけるさ河さ吾よ代よ人のわしきハなお無
ありそうく己の仁愛の徳をしなすさよこそとこつく
とうめさくかりそめましも人とうあんぬくそれひも人よ
まけてもそらくのみすしくは淑睦とはとめ私満のか
のおとくし堪忍なく利欲あさくいふるの悪
人までも感動せさるハなくへかりすたとひ其人よ
感動なくともかく人の人を良知くしめしさるゆへ
よ我淑睦をほめうやまひかきろ模範とゆくこと

ならすのまり人のよく思ひのつくところなすなわち天
のこのくこしあふところあり天道人間ともろともに無
よくこせん事まましたさきも福のりしきこするを八
あくとおりひたすくさそて人の情まちさをとるすれば
淑睦の心の日をしよすくかんなん

○王覧乃妻を此兄よめよ淑睦まあやの敵る事そくひ
あしその継母朱氏のこゝろよ兄此王祥を讒言して
或此王覧ハ実子なりきまは王祥乃妻よハつれな
くあたりて王覧の妻をいつくしこいさまり兄よめ
よつまになさこあたりかり無る王覧此妻あるけきの故
しのてくつくまび兄よめよあやハさるまさ深あ

てられぬる時も王覧の妻もともにいとふことなく
氏王祥の妻に能まじはりてんとすれバ王覧の
妻ものこりなくいとなむことをいとひていつとなる
くそのかやりうきのちにハ婦なりけるにあつくおもしく
隣家の婦もしりなりとまじより和親和睦して王祥王覧も
ろともに孝の家ののりなりて孫子に至るまて富貴
その家さかえたれバ今にいたるまて家門つゝかなく
あるへかり
孫氏乃麁悪よりつまそしるさへ和睦乃徳ハ
やはらきぬましてさしあたる同官の人をやされバ
王覧夫婦の悌睦ばかりにて朱氏の悪ゆるし

家内和睦して代々の富貴をたもちしとかや
まこと至誠乃功徳ハ量なき事なりときこえつるこそ
○章氏兄弟壮年とすぐる迄子なかりしかバ一族の
内にてかしこき兄の子を養子とするひぬそのちに程なく
弟にも一人まうく兄の子ハ実子にうまれぬまゝ
養子とハ言ふにおよばす人の子なりとさまざまに
うけたり兄ミその妻にかくと語りけれバ妻うけ
この子をしてふけるハ道なくして人のそと語りけるひとつ
とまうけてもなくなんこと悔ること道なきこと也
おもひろとさ心行おハしまじつるより冥加あて

たゞそらがたりの陶へしと云けれバ夫(おつと)も強(ちから)ること
とあさく流してやこぬきたれども才能よくこそ
てやまず兄嫁(あによめ)やむごとなく給はずして有しなりつる故
おすべきことわりなりけるを今悔しけるとぞ
そのへんやかの才志ありかりけれども阿井
ますますけるをとある人なり喜子(やうし)實子(じつし)とてふたりの
おうしむかうち才徳(さいとく)すぐれて衆人(くゑん)のうちにぬ二人の
子兎よ男子(ゑん)めでたりつゝ悔しけるあるり同きも才徳(さいとく)
人なる古ええく皆位(くらゐ)ふかく仕へたりけり
子のかずず多く其子なる孫(まご)よわたくしあく八婦人(ふじん)の
教のなし〜ひなりいやまれるまゝ付けるなるとぞ

〇兄嫁(あによめ)淑睦(しゆくぼく)の心ざしやはらかなるゆへに兄弟(きやうだい)娣姒(あひよめ)一体
のむつましきこゝろがけ我がちなるこゝろなく才ある
者はそのこゝろなと同じく思ひなすゆへにゆるく思
く悔しける常誉とりぬと才ある人なれど身は貌(かほ)
子をそこなひぬまことにありける仁徳(じんとく)なき事は人をたましく
つくしみむつまじひなかるへきや婦人(ふじん)のそれ子のまもりて
しずかもまる子を愛(あひ)する事の深(ふか)さこゝろさとき
まりわるくしなくてまろなれさるへきんでのとま
きまるへきとしても淑睦(しゆくぼく)くしかるへくしずかなく
思ひとるへきこと也なり
凡(およそ)丈夫(ぢやうぶ)乃なしひかず妻わたくしに惑(まよ)いさらすにかなし

さればこの父子兄弟一族の和睦せざるはこれ婦人の
言葉によりておこりぬ。またしかし一門の和合する事婦人
のことばによりて一家やすかるべし。婦人に三従の
義あるのみにあらず。善となすときは夫を
すゝめて善をおこなはしむ。或は弟をすゝめて、其の功徳
のむくひもまた善にすゝむるは、うつくしき善となす
ときは一家にせり人あれば善行をたのしむべし。父
子兄弟一族の者におのおの仁徳をおこなひ和睦
する事大なるは、かしこき人の妻にまさりたる和睦の
道をしるべきもの、すゝむる心ざしあるは皆和睦の言
葉にあらはるべきことなり。

おやかるがゆゑに、ひなきまことにあはれなる事へく。まことに
仁徳にて一門和睦をなし、その身の和睦の
あらはれてもまた和睦に勧化せられてその功徳無量
なしてまことにむくいをうくる事は又とうとかるへし
と和睦のなき心ざしにあらば魔障あまた多しと以
ともに積徳と計らはす貪心とほしいまゝに嫉むの満心
なる夫ひとなる、がるしく我慢の驕心ををさへて
のむさぼり深く和睦日々に進みてかなへ
がたくちりぬるものと思ふべし

廉貪報

廉はむさぼらざるなり貪はむさぼるとよめり是非なくきよくこゝろよく財寶をむさぼらざるを云なり夫財宝は天下の生民を養はんための天地の寶なれば萬民のものなるを我ひとりそのみ貪り私すべきものにあらず廉なる時はいさぎよきによりて貪心なし貪らざる故けがれなく財寶を己一人の私用にせんとの欲心なし欲心なければ天下の家も國も治る理なり其身をも利し人をもよくし公用とおなじく一切物一体の心ばせにて万物一体の仁明にして財宝これ用をむさぼりなく人をすくふは天道のくみし給ふ所

なるによりてよく心をいみじきむくいありとしは宝
をたうとしむる故財宝をたのむ心一人の私利にせんと
むさぼる事は天地万物一体の仁におほひかくれたるまゝ
にまことの身は富貴めはびこりと偏りの気めぐりて人をそこなふ事
事をかへりみざるゆへ私欲さかんにして天道のいましめにあふ事
あるに財宝を私用にむさぼり人をそこなふゆへに
虎狼のおそろしきにもまさりておそろしきむくひあ
らんや されば小人の貪欲はたのまるゝ子孫のためを思ふゆへ
なりしかその徳ある人は賢なりしかれども人のうらみこれ
をあつむる天命これをすてたまひてついにおそろし
き報ひあるべきはそれ損するといへども次第にのかるゝなるべし

思はざるなり君子は廉にしてたのむ所はなりと云ところ
なくして損あるは得なりまことを人とすこれを愛
敬し天の恵みあまねくこゝろをつくして所あるにいたりて福
ひあまるもその徳をあらはすこと多く報ひあるもの
とかくこゝろをなすべし貪なるは得なるゆへに損なり
廉は損なるに似たる得あり貪は陽に属して
とを主とす故にまたすれば損をも財宝をはらひ散して職あり嫉妬
なる陰に属して収斂を主とすれども財利をもた
ぬ故にひそかに蓄するなりこれも陽の中にも陰あり
故なりしたがって財を生ずるなりすべて陰中に陽ある
ゆへに婦人の貪欲にもその情をこゝろざす陰陽の

驕吝斂と云ハ大概にいへハ人の財宝なと施すを
をしむハ今も謂道理にいへハ人を廉とし應なる
奉公ハよく蓄なとゆへも我しむへきさゆへに
人にある人の譲子は味わひもなく人の歎くこと見ろ
ありむさほりもののくハしく見けきハおしむ心そく
あらくしきゆへに人にある人ハ情の味ひもなしく
して分のうしろをとらく曲もよくことをさまする人
事あり或曰道理をいつきに此ところすへてある也曰なら
人に万物一体此仁愛ありこれを道理のなかとすたゞ
心に欲く分別してあくまて求しとるへしそまくハ本
執すへしと思ふすなわち天理なりさる程なり

志のちひて財を用ゆるも福分なきもの人の財用を
ましかしずして福なきすべてものを飢寒乃患なし或
曰むさほりきん八財あつまりかくさまれ然れハよきは
読而も志のしるゝなるに富ハ切ことにそ曰それハ財
の中にて我が身にある金銀とあつめたるこそ
いはく富と財をひろとくして家業よりおこなふその
あり金銀とあつめてまれもつハ人にもおくことハ
きるともし古人がいのやつこと記したり文金銀を重
寶とふするハ家財をも達し難儀とすぐれんとなん
志の面にむさほるものハ金銀をおもむひ心の紀ありよ
川く我用財もつハ手ずして箱に入置におさむこみ

不義のたからはよく用心して猥に非義をとりめさるへし
金銀の宝をえんとするこころひとつも用まさるへくすして
石瓦のひとしかく蓄りくもせんなき礼拝をあつめん
と願ひふかく貪心をすてさるは愚癡の至極なるへし
且廉と貪とその得失まつりのまへるまさる廉なり
てあつまるかへりてさる理すりゆるくとある事へ大抵よ
らしもとんなしきものとなしてとるは盗賊のまし
く貪るものもてるとあさはやすかるへし あるへき
ものをとらへさまそ無ら世のためしなりなるに
人の貪るものをあたへすをあさはすとひ八百
銭とるへきをむさほりて百三銭又は百とり百銭より

無きを貪へまさるに七文あまりにとくすれきの後
なりけるに肉は後悔をとらりつりて山をこえる
むさほり財宝をつまつく積ひもまさへ山にしるへし
つまりそのとまれまへを嬌よにわりもしく出のてしらぬ
あるは海とうよあまられよささ
李郡君なる女なれとも賢徳あり或時
よすかひの媼玉とつまり来りこ帰りかゆまるものを
やとつれとして まぬそのあとみて郡君おもしろ
玉をかんつまりそれおかけさせてれなきことをむさほり
志をおもくとも志つよまれなくとまさる事
しておろかむ心あるによろこんとしてぬ之

しくかとありしく彼女すかひ来りぬれとも出ぬる
さても云かけすその容貌とこれハ見せおもふところへ精神
かまくくと嫌らく其のかしこ来まくる事満よあらしん郡君
おやしく招りひ語られさるハいりかしてた様よお
とろへけるかいつそや来りし時出を一つおとしゆ
きぬりへさんとおもひかけぬ書こても中々さかしこれ
そのまゝかくせんのおもはあおさきぬ今汝かいかひに来まり
かへし物くてそ出と捨いやまさまりすかひ地を
ろこさかろかんそく汝をあらしやけるハ此出を失ひ
しなと思ひ暮すれとも相ひ帰んま方へとく高る事
及ぶさすし出ぬし此方へ金子百両斗めまて俺れ

ともその方ゆくさきまたハのますり此方しきよりくや
つま縁りぬいまさいへ二ひょ君此めくことありて出を
まかりるハ我命を給ける道をもこまやしうけんもわま
まそしおそろしけまいハ金子六十両ならんとて金子
をとらけあとうけぬ郡君あさ笑ひて此今とうきん
とあしそもいかんそあとくへさんやとそて金子をもへ
ぶへくそりうれてらかととありて郡君病の中から上
しぬ病中ろ夢よ車にのりて広きさ野を行まき
みひなる宮府に到りけるか玉の常よみすくれてし
そすりきハ二人衣冠正しくるこして堂上に坐きり郡
君を請するへありて郡君とひりく堂下よりぬ

事しとはらくなげげとおもひしき人大帳をおして塗
よそほひありけるに二人のやくにんひきたてけるに遂く衣冠
の人この帳をよりみてひとりの官人汝らすみやかにひとり
をとらへよといひえけるやと同郡君しるしおへぬ
と答へ文一人汝らが寿限この所にあたりぬまた一人も
件乃陰徳あまた八二十年此命をのぶと云ふ又一人の曰
二十年までいはず此まじきやと一人の曰女人は貪欲
あの此もの欠りるよ欲をとらへしめるを廉達すべし此
奇特なる事とまぬかれ給ふしと云へり次いでそきかへ
もへしと此給ふべくまのさ車にのり門をおるると見えてま
きんおどろきさめぬ病もおとろへいえにけり諺に

あるりそのたゝ二十年よ命をのへ給はりて久ん
何おしと貪心より此人なりとも一年此命を千両
まもりへおんや寿命長遠乃おめとそくく
其のさまおしかすそ寿命もちての福徳廉達わ
乃期寛とつおもやそはよのつね此人乃智ひろりい
大なりは知りとよくもさめんして貪欲をすて陰徳
とをはげむべし

○万年県乃元氏か妻は謝氏貞にいてのちは親元
年のあらく苦栄その娘乃夢よ記して云けるに
まきいはまる此所に小さき銘まて酒とうり大きなる銘
まてあるひとりあまりさへ酒のはかりとまじはり

せし報ひに今北山下の人家の牛と生まれ法界寺の
夏侯師と云ものに買とられ塚原の田を耕し
ぬその苦痛堪がたかりしと語ると見えて夢さめ
きめぬ娘めまことしくも思はされたゞちにその
告あまたに深くなげかしく涙をながしそのまゝにしつ
しるとかたりぬまたのとしやくもいまさりけれ八娘め
も何とかくうらむ過ぬその悪く年月に法界寺
の比丘尼への娘めのもとへ来りぬ此すめははるかし善福
かりをして夏侯師と云人やあるその家に牛や
あると問けまし比丘尼答へてげに夏侯師と云人
ありしも此家に牛もかんしぬその牛乃来るそかへ

やうらともしらずはとりつゝ娘めハつしきまるに報ひ彼比丘
尼とともに夏侯師のもとにゆきて牛の来るをまちしに
しばらくありて海さしく北山下より買来りいまの塚
原の田をすかせやがて云此牛の昔よ語ゝるを八
きゝて娘めやと思ひあまり涙をながし牛を求め得て之
給んと請夏侯師あやしく思ひて娘めといひて牛
をやへゆきくまはこの牛すぐれたる人にまかせてつまよ
りの一人ありそへなまりしの此娘めをかんでなきつく
のこるらん涙をながしければむかしもあしきに思ひ
着まりぬ迷いいかくこの牛涙を流し娘めをねぶり
て只物をいはざる計乃ありさま悲娘めすれハらあはれな

されて深くとり所々にめぐりやしなひそだてられ
貪欲乃人ハ換物のくるしひ牛と成り田を耕すりひ
としよのつとめ乃世俗もききこすく命尽くるとき人
畜生といひおとしめぬきこん生ずとうへきくはすこめ
て畜生とぬるはおこりん今生すでに人のかはりとて
かるる畜生となりかくおさ悩しき沉寃溺ノ魍ぎれ
じむすめよ昔らかたとの通力ハ有ましくれども
鵜鷺氏粉理とあさしかよ志なさんとめよ神明
のかまつは代りと告のよきたまへ下欲氏一人かく
あるよ殉しん世乃貪欲の人ハ皆一例なる
きゝ人よく眼をはくべし

○崇文門のほとりに商人ありけるが或夜乃ゆめにこ
母告けるハわれ存生の時そうりめんやのかけをますぼく
すみさしてかへらざりしが今その錢の償となりてこゝにきたると
償ハ手数年今銭を屠るもののようりたまへと母
母とおもひてすこしやりたまへりて命をあたへ其の町
の某と云へるそうりめんやをたづねて語りてゆめ
さめてのちそのやき覚えて件乃そうりめんやをたづねて
ゆきてゆめかたることをかたらひ問にすこしもたがへ
ず此驢馬一疋二錢にてかいてすでに病をへたまへり
売りぬると云けり子是を四錢にてはかりとかへしぬり
とは傍惜して実に償んとこひぬきたえゆるさず

まことにれハゆめの告にありさまと一〻かたりてなげき
いひたまひことゞもろうめんやすくもうけごれん
あまりに聞人もまことしからすと疑ひけれものは
驢馬とかんせられハ驢馬ハものをかんるとおとしく
悔とたまりしあけさ告るよりまかんる人あまれは思
議をなして合力しめれとも一両二両のほどもされハ
もうめんやゆるさ次にそのまぢ三なげきまどめさしや
ますざかよりくろうめん至まりけるハこの驢馬ハ
しかむとつもしをやさ病ん汝にまをひかくわらり
なし汝ら我あらんと云けりの驢ぞるよ向ろくかくと
さげかれん驢馬をどりてよろこひ喜あらぬの其
驢馬とひのくつゝしとわゝりかれとなげんあく亡ん
てかり陸錦衣に死ましを守るく驢馬と人ゝとゝまひそ
こまさと試ろるふそのかしこまる亡かんろく驢馬も蹄
を作して光さまつろそかり陸錦衣大ひよ聿の稽ゑハ
とくしろく銀一両まず一石あるんろく驢ろるとそのよへつひ
どうしせたり

貪欲なるもの習ひ悪て貪れハきそのれよ益ありと思
ひ却て大ひなる損あることをまらしん飢饉にハ
餓死するかりの皆貪欲の至まりしなれハその大しあ
なる損一のあり貪欲の人とは元人よくことあるべか
事ー大馬にはましことそのの損二つあり貪欲の

人一度の損ひよも焦熱地獄乃苦痛ありこれ
その損三なり。一。わが身よわくあらく須
死してのち牛馬くるしき畜生道
の苦ひをうくる。二。つまり廉直乃人
は此損一もなくて。一。よく損ひをまぬ
て貪欲といはず。二。形り
○周才義の婦才酒す。才美をとりそへ
とて弟と二人ありけり。一。そハ人よりてあ
ききの弟ありてとりし。其のけいりやう
てよそへかくすべしと。人よ数へられハよめ
りけりこのすてけり。ちからつきて天年

おもしく我さいだんの戸をとこるよあしくいとよかと語
りりて弟の後しんと清才美その家の勢ひとなへし婦こ
之く翁の兄弟と流れひさしまよとこる美なまるむ
きぬまで心を天の書へありてひもなくのとよあく
んよ孫までもそのひくひあそろしく行迷ハむくや
なりと云才美がとろきこしてたあらしもその方の
めよ旃くせく向後兄弟と睦まじすべしと云婦
て兄弟とけらひの年数をいくばくそやと云二十
余年よ及つりと言ひ婦人ハきるハいますより亦語
ものあらいさこさ弟よりて天子の弟まで則
今まてれ將とはくのひとなら弟まうよし語

こゝにありし十郎とうけ給へしと云才美悔悟して
兎も角も此のさいんんに酒をすゝめて十郎を深し
あまつさへ帰りけるとりて廉直なる十郎をおもひあやまりぬるは
そ於も目しにさうへ生るゝ事二人ありて数年の間して父
弟してなる事よのかりしくなり
よのつねの人のならはしは貪る所なる財積り金を
さきは財あつまりかたしと思へり此習ひやすき
まよひくきてもなく然へり廉直をいさきよし
と好こ貪欲とききてあしと悪む人々よ何分
ん人まきもしむさ旧数もなくし次財あつまりし人廉
直もなるゝす財をうしなひそのゝ人貪欲なりしは

餓死乃むくひあり廉直よ八冨貴乃報ひあり然
天理をとりいまあまへなす誰も貪欲のけがれ有る
まし才美けしめ八万代の貪欲よまさつゝ騒がし
まうさと然りんとすれとも帰の座上して然れは
く冨るを見るゝ万代乃貪欲よまれしく
福分代をうれかこし残悔めんしされハ貪欲の
人ゝは金銀米銭をかりしもおしゝと思へる金を
積り置りくゝ人しんかの積となるを残癖となへ
くこの積いでききめまゝし聖人の教化も入かたし
才ゝある人ハこの積りまさなりけるをやうく金
言を信しきと悔悟よあつり終よ清貧を得

ありし故事を見聞人ハ其まゝ留まれと専
らにせし事なることの積

天明元辛丑歳十二月求板

書林　尾張屋勘兵衛

二条通柳馬場西ヘ入町　八文字屋庄兵衛

麩屋町姉小路上ル町　近江屋治郎吉

松原通柳馬場東ヘ入町　菱屋勘兵衛

弘所

堀川通高辻下ル町　菱屋文蔵

上州 伊勢崎 新町店 小暮